ニュースリリース

東京医科大学
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY

平成 27 年 4 月 1 日
東京医科大学

東京医科大学に株式会社バイオミメティクスシンパシーズによる 産学連携講座「幹細胞治療学研究講座」開設

平成２７年４月１日より、新たな産学連携講座として、「バイオミメティクスシンパシーズ(BM-S)幹細胞治療学研究講座」が設置されました。

世界的に細胞治療の機運は高まっており、バイオミメティクスシンパシーズ社の有するヒト由来間葉系幹細胞は、自己免疫疾患をはじめ、がん、加齢性疾患などにすでに臨床応用されています。一方、その薬理作用には不明な点も多く、この点に関して、長年、難治性病態に対するアプローチを行ってきた本学中島教授と共同研究を行い、飛躍的に発展させていくことを目指します。

本講座は、株式会社バイオミメティクスシンパシーズの希望より今回の講座開設が実現しました。

＜講座の概要＞

１．設置大学：東京医科大学　　東京都新宿区新宿 6-1-1
　　学　長　：鈴木　衞
２．講 座 名 ：バイオミメティクスシンパシーズ(BM-S)幹細胞治療学研究講座
３．寄 付 者 ：株式会社バイオミメティクスシンパシーズ
　　東京都江東区青海 2-4-32 タイム 24 ビル 19 階
　　代表取締役　漆畑 直樹
４．設置期間：2015 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

＜研究目的＞

間葉系幹細胞は、生体内の脂肪、骨髄、臍帯などに存在する、多分化能を有する体性幹細胞です。間葉系幹細胞は種々の中胚葉細胞、例えば、骨芽細胞、軟骨細胞、脂肪細胞に分化することができます。間葉系幹細胞はその多分化能から、骨、関節、筋肉、肝臓、腎臓、心臓、中枢神経系および膵臓などの早期再生医療への応用が期待されています。損傷組織の補填、代替以外にも、間葉系幹細胞は種々のサイトカインや細胞外マトリクスを産生することにより生体内で様々な有用な働きをし、なかでも間葉系幹細胞が持つ免疫抑制能は研究が進み、カナダとニュージーランドにおいては、骨髄から分離された同種間葉系幹細胞が移植片対宿主病（GvHD）に対する治療薬として承認されています。その他、心筋梗塞、脳梗塞、クローン病、全身性エリテマトーデス、下肢虚血など、幅広い疾患に対して世界中で研究、治験が進められています。間葉系幹細胞の様々な疾病に関する効果性は、徐々に明らかになっ

ていますが、その作用機序に関してはいまだ不明な点が多いです。
　中島教授は、リウマチを中心に病態の分子機序を次々と明らかにしてきました。今回、バイオミメティクスシンパシーズ社の細胞培養技術と、中島教授の知識、経験を融合し、間葉系幹細胞の薬理機序の解明を目標とします。

＜問い合わせ先＞

「研究関連」
東京医科大学　医学総合研究所　中島　利博
TEL　03－3345－0165（直通）　FAX　03－6302-0265
Email：marlin@tokyo-med.ac.jp

「広報関連」
東京医科大学　経営企画･広報室　日髙・田﨑
TEL：03-3351-6141（代表）

「株式会社バイオミメティクスシンパシーズ」
東京都江東区青海 2-4-32 タイム 24 ビル 19 階　研究開発本部　高垣　謙太郎
TEL：03-5500-6330